

# 木下よしひろ 市政レポート



発行：木下よしひろ政務調査事務所 <http://www.kinoss.jp/>

## 新市庁舎整備計画に**異議あり** ▶ 総事業費**1,400**億円

### 市民意見は反対が最多。市民の声は届かない…？

横浜市の財政状況が極めて厳しい現況下、市は「北仲通南地区」に31階建140メートル総事業費約1,400億円の新市庁舎を整備する案を進めています。「新市庁舎の建設」は、現在の横浜市民のみならず将来の横浜市民の皆様の税金によって成り立つ事業です。140メートルの超高層ビルの新市庁舎建設を、市民議論不在のまま行おうとしているように見えますが、本当にいいのでしょうか？

2月の特別委員会にて「北仲通南地区を整備予定地と位置づけ、検討を進めます」としました。1月横浜市は、新市庁舎整備基本構想(案)に関する市民意見募集を行い、集まった意見294名。そのうち反対が最も多く95名で北仲通南地区案が81名にもかわりません。

我々の会派は、これは大問題だと考えています。「財政的」にも「まちづくり」の観点からも横浜市の今後に大きく影響する計画ですが、横浜市民の皆様がこの内容が正確に伝わっていないのが実情です。市民の知らないうちに巨額の税金の使い道がきまるようなことがあってはなりません！そこで、問題点を整理してみようと思います。

#### ◇ 1：十分な市民説明を行わず、決めてはいけません！

1月に実施された市民パブリックコメント募集は、人口約370万人都市において6500部のみ…。意見方法も自由記述ハガキであり、なるべく反対意見を書かせないよう作られた印象が否めません。結果から「1,400億円もの事業を強引に今進める必要はない」、「税金無駄遣いはやめて欲しい」という多数の意見が出されたにもかかわらず、「新市庁舎に関する調査特別委員会」において、北仲通南地区に高層ビルを建てる「結論」で一本化し強引に進める姿勢を示しています。市長自らが説明をし、市民の理

解を得てから進めるべき大きな事業ですが、林市長は自分の選挙公約にも市庁舎建設を掲げておらず、この件は、市民にとってはまさに「寝耳に水」となっています。本年8月には、4年に1度の横浜市長選挙が行われる予定ですが、誰が立候補するにせよ、市庁舎建設の問題は、市民レベルの議論をしなければいけない大きな争点であると思います。

#### ◇ 2：50年100年後の横浜まちづくりの視点が欠如！

この問題、単なる市庁舎の整備にとどまらず、50年100年にわたる横浜都心部、ひいては横浜市全体のまちづくり、都市計画のランドデザインに関わるものです。その前提に立ち、現在の方針については見直しを求め、より慎重に検討されるべきであると考えています。現在の案には2019年以降の人口減少、それに伴う市職員必要数の減少、道州制・地域主権の流れから来る市役所から各区への分権化などの考えが盛り込まれていません。

それから、移転により関内駅前の空洞化を心配する声が市民から寄せられていますが、その解決案が全く練られていない中、何故、事業を拙速に進めようとするのか、甚だ疑問です。

今後もこの新市庁舎建設の問題を、重要課題とし、追求を続けてまいります。

#### 木下よしひろのプロフィール

1977年 12月21日生まれ。35歳。178cm  
横浜市立幸ヶ谷小学校卒業/横浜市立栗田谷中学校卒業  
神奈川県立横浜翠嵐高等学校卒業/東京学芸大学教育学部卒業  
東京学芸大学大学院修了(教育学修士)

##### 【職歴】

横浜市立中学校講師/横浜市立中学校事務主事  
横浜市立小学校事務主事/横浜市立中学校教諭  
2011年4月横浜市議員初当選  
みんなの党横浜市議員団所属/経済・港湾委員  
観光・創造都市・国際戦略特別委員会委員  
趣味：サッカー、テニス、卓球  
好きな食べ物：チーズケーキ、ままだおる